

特集

平成 26 年度耕作放棄地再生活動表彰事業

本県では、耕作放棄地の再生活動が、地域の農地利用促進や保全管理に大きな役割を果たしていることから、実践の模範として波及効果が期待できる者を表彰することにより、耕作放棄地の再生・利用に資することを目的に、平成24年度から表彰事業を実施している。

本年度は12点の応募があり、平成26年12月17日（水）に、関係機関の審査員による審査を行い、受賞者が決定したので事業概要及び受賞者を紹介する。

1 表彰事業の概要

(1) 名 称 平成26年度静岡県耕作放棄地再生活動表彰事業

(2) 主 催 静岡県、静岡県農業再生協議会、静岡県担い手育成総合支援協議会

(3) 後 援 静岡県農業会議、静岡県農業協同組合中央会
公益社団法人静岡県農業振興公社、静岡県土地改良事業団体連合会

(4) 応募対象

概ね2年以上にわたり耕作放棄地対策に積極的に取り組んでいる次の農業者、組織を対象とする。

ア 推進組織

耕作放棄地の再生・活用に取り組む地域耕作放棄地対策協議会、農業委員会、農業協同組合、ふじのくに美農里プロジェクト組織等の推進組織を対象とする。

イ 農業者・営農組織

耕作放棄地を積極的に再生して営農利用している農業者、農業生産法人、農業参入企業、NPO法人等の農業者・営農組織を対象とする。

(5) 受賞者の選定方法

ア 応募希望者は応募要領により、申込書を主たる解消地を所管する農林事務所に提出する。
なお、県下全域にて取組を行っている団体等の場合は、申込書を静岡県経済産業部農業振興課（以下、「農業振興課」という。）に提出する。

イ 各農林事務所は、申込者の取組状況について取組状況報告書を作成の上、申込書に添付して農業振興課あて提出する。

ウ 農業振興課長は審査会を開催し、互選により表彰対象を選定する。

(6) 擬 賞

ア 最優秀賞 1点

イ 優秀賞 2点以内

ウ 優良賞 3点以内

(7) 受賞者一覧

賞	所在地	受賞者名
最優秀賞	浜松市	有限会社 コスモグリーン庭好
優秀賞	焼津市	藤守地区耕作放棄地解消基盤整備事業推進協議会
	菊川市	新規就農者養成遠州夢咲地域連絡会
優良賞	南伊豆町	株式会社 アグリビジネスリーディング
	富士宮市	富士宮市農業委員会
	浜松市	けっこい中郡

2 審査講評

本表彰事業は、今年度で3回目となったが、前回までの「推進組織の部」と「農業者・営農組織の部」の二つの部門を統合し、審査が行われた。

応募総数は12点あり、再生に向けた活動状況、耕作放棄地再生活動の成果、地域活性化又は経営への寄与、話題性及び活動の継続性・発展性について審査を行った。

各応募者ともに耕作放棄地を地域の問題として捉え、再生活動に積極的に取り組まれ、着実な成果を上げられていた。

推進組織は5点の応募があり、農業委員会等が主体となる農地再生支援組織のほか、地域の特産物を維持・普及に取り組む営農支援組織や、地域の農村環境の維持・復元に取り組む住民組織からも応募があった。それぞれ地域の知恵や資源を活かした取組であり、審査員も感心させられた。

農業者・営農組織は7点の応募があり、近年農業参入した法人のほか、地域の特産物を普及する集落営農組織や、個人で再生利用に取り組む農業者からも応募があった。それぞれの取組は、個々の農業者等でありながら、耕作放棄地対策を地域貢献や地域課題と捉えた取組が多く、創意工夫に溢れた取組は審査員の評価も高かった。また、今回の応募者の中には、耕作放棄地での営農期間が浅く、成果が現れていない取組もあったが、耕作放棄地が経営に活かされた実績を持って評価すべきとの意見もあり、入賞しなかった方々には、成果発生後に再度応募されるよう期待する。

最優秀賞を受賞した「(有)コスモグリーン庭好」は、浜松市の造園業兼廃棄物処分業者であり、造園業で発生する剪定枝や刈草と鰻残渣から製造した堆肥の有効利用と地域貢献のため、平成22年に耕作放棄地を再生利用して農業参入した。経営面積約9haでは、すべて耕作放棄地を再生利用してサツマイモを栽培し、加工品の開発も積極的に行い「うなぎいも」としてブランド化を図っており、地域貢献と6次産業化の総合的な取組が審査員の高い評価を得た。この「うなぎいも」ブランドは、様々な宣伝活動と「うなぎいも協同組合」の組織化により、着実に発展しており、今後も耕作放棄地の再生・活用が期待される。



地元企業が耕作放棄地を再生してサツマイモを栽培し「うなぎいも」ブランドとして6次産業化に取り組む

有限会社 コスモグリーン庭好（浜松市）

1 組織の概要

- (有)コスモグリーン庭好は、浜松市南区で造園業を営む。平成22年に農業参入した。

項目	内容
実施地区	浜松市、袋井市
再生面積	8.5ha

2 取組の契機・経緯

- 本業は造園業であるが、別で剪定枝や刈草の廃棄物処分業を行っており、破碎して堆肥化するリサイクル処理をしている。この堆肥を利用した地域貢献を目的に農業参入した。
- 栽培品目は様々な品目を試し、耕作放棄地でも栽培が容易であるサツマイモを選定した。
- 初めての取組のため技術が未熟だったこと、耕作放棄地利用により、生食用に出荷できない芋が少なからず発生したため、加工品開発を当初より行い、農林水産省の6次産業化法認定を受けて、補助金を活用し、ペースト加工施設を設置した。
- 規格外の芋を加工に向けることで、すべての芋を活用できるようになった。
- 「うなぎいも」という地域ブランド化を図り、平成25年5月には、生産者が出資して「うなぎいも協同組合」を設立した。正会員の組合員は40件、賛助会員は20社、栽培面積17ha、関連商品30種類、関連商品の売上は5億円程の取組になっている。耕作放棄地を再生して生産に取り組む会員も多い。



再生農地にてサツマイモを収穫

3 取組の実績

- 全ての経営耕地が耕作放棄地であるため、可能な限り、交付金を活用しながら再生している。新たな地域の借入れに際しては、市、県、農協などと連携を図り、地域の理解を得られるようにしている。

4 話題性・発展性

- 「うなぎいも」栽培は草木の廃棄物やウナギの残渣を利用し、バイオマス活用につながっている。
- 実際のうなぎいも協同組合を組合員の8割が新規就農の企業や個人であり、新規就農者の受け皿となっているほか、耕作放棄地の再生活用にも寄与している。また、生産者のみならず、加工業者、流通、販売、包材、広告など様々な業種がチームを作り活動している。
- 自社ではペーストを利用してプリンを製造・販売しており、平成23年度ふじのくに新商品セレクションにて金賞を受賞しており、ヒット商品となっている。今年度は、しずおか農林水産物認証を取得し、安全安心な農産物栽培やブランド力向上の取組に力を入れている。



官民協働により 4.4ha の放棄水田を再生して担い手に集積

藤守地区耕作放棄地解消基盤整備事業推進協議会（焼津市）

1 組織の概要

- 藤守地区耕作放棄地解消基盤整備事業推進協議会は、地区内の耕作放棄地を基盤整備事業により解消するために設立された組織である。

項目	内容
実施地区	焼津市藤守地区
再生面積	4.4ha

2 再生に向けた活動状況

- 長年懸案となっていた耕作放棄地内の不法投棄物収集・分別作業は、県、市及び会員が協働で実施した。
- 県単耕作放棄地解消基盤整備事業の活用や(株)クボタの社会貢献活動「eプロジェクト」の協力により、平成26年3月末をもって再生作業が完了した。
- 全体で4.4ha、1区画が50～100aの大規模水田に整備され、県が推奨する県オリジナルの酒米「誉富士」が作付けされている。



再生農地で酒米を栽培



耕作放棄地 3.7ha を活用し、新規就農を促進

新規就農者養成遠州夢咲地域連絡会（JA 遠州夢咲管内）

1 組織の概要

- 新規就農者養成遠州夢咲地域連絡会は、「県がんばる新農業人支援事業」を活用し、JA 遠州夢咲管内における就農希望者を先進的農家で受け入れ、独立就農を支援する組織である。

項目	内容
実施地区	菊川市、掛川市、御前崎市
再生面積	3.7ha

2 再生に向けた活動状況

- 受入連絡会が中心となり、就農地となる耕作放棄地の情報を収集するとともに、地権者の意向を確認、併せて貸付の条件などの調整を行っている。
- 耕作放棄地となった経緯を十分把握し、排水対策、ハウスの設置等、耕作放棄地再生利用交付金の活用に向けた農地の再生整備作業などについて助言を行っている。
- 就農後の経営安定に資するために、連絡会の中で耕作放棄地の再生を含む営農計画を支援する他、構成機関が綿密に連携し、経営や技術に関するアドバイスをを行っている。



再生農地に整備されたハウス



耕作放棄地を活用して水稻の規模拡大を図る

株式会社 アグリビジネスリーディング（南伊豆町）

1 組織の概要

- 株式会社アグリビジネスリーディングは、平成21年に設立され、南伊豆町に本社を置く水稻を栽培する農業生産法人である。

2 再生に向けた活動状況

- 耕作放棄地化した農地や、耕作をやめる農家からの借地により、設立時の8haから賀茂地域で最大規模の10haに規模拡大した。
- 小区画や場所が離れているなどの理由で作業効率の低い農地は、小面積なら耕作が可能な農家に引き継ぎ、耕作放棄地の再発生防止を図っている。
- 農地は一筆ごとに作業内容・収量及び品質等を記録し、効率的な経営につなげている。



再生農地



農地相談員の設置と意向調査の実施による耕作放棄地の再生

富士宮市農業委員会（富士宮市）

1 組織の概要

- 富士宮市農業委員会は、農業委員会等に関する法律に基づき、富士宮市に設置されている行政組織。農業委員30名で構成されている。

2 再生に向けた活動状況

- 平成23年8月から農地相談員を設置し、市内の耕作放棄地及び荒廃が予想される農地をデータベース化し、借受希望者に迅速に農地情報を提供している。
- 耕作放棄地の解消と併せて農地流動化を推進することにより、耕作放棄が懸念される農地の荒廃化を未然に防ぐことができている。
- 耕作放棄地所有者には意向調査を実施し、希望者には貸出の斡旋申込書の提出を促し、借り手とのマッチングを行っている。



再生農地で野菜を栽培



ふじのくに美農里プロジェクト組織が耕作放棄地を再生してソバや菜種を栽培

けっこい中郡（浜松市）

1 組織の概要

- 「けっこい中郡」は浜松市東区中郡町を活動拠点としたふじのくに美農里プロジェクト組織である。

2 再生に向けた活動状況

- 1.4haの耕作放棄地を再生し、ソバと菜種の栽培を行っている。
- 再生農地では、地域の中学校や医療施設に対して営農体験の場を提供することにより、農業の大切さを広めている。
- 継続した活動を行うため、会ではソバや菜種油の販売を積極的に行っている。



再生農地でソバを栽培